

2015/6/22

## 柏の景気情報（平成27年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成27年5月分）

○ 調査期間 : 平成27年5月22日 ~ 6月2日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	82	52.6%
建設	44	23	52.3%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	24	55.8%
サービス	36	17	47.2%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

#### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

#### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

## 【平成27年5月の調査結果のポイント】

### 《業況DIはやや悪化。先行き持ち直しへの期待感も、消費回復に課題》

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が7.5ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.0(同▲13.0)、製造業▲11.1(同▲5.5)、卸小売業▲50.0(同▲44.4)である。

【建設業】からは、「子供が実家に戻り、同居するにあたってのリフォームの問合せが増えてきた。年金暮らしでは、所得税減税などのメリットが受けられないが、子供が融資を受けて、一定の要件を満たせば適用対象になるなど」(一般土木建築工事業)、「新規の工事より改修工事が多く、材料の価格は落ち着いたが、見積り積算価格は低い」(電気工事業)、「畳縁(へり)バックの売れ行きが好調なのはとても嬉しいですが、畳縁だけでなく、持ち手や裏地の仕入価格が上昇していて本当に困る」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「為替の影響で海外品の仕入れ単価が上昇傾向。運転手不足による運賃価格改定の依頼あり」(その他の機械・同部品製造業)、「建設機材の輸出減少で売上が減少。給与平均10,000円アップ。不採算企業と交渉(価格アップ)が実現」(その他の金属製品製造業)、「絶対に仕事量が薄くなっている。現況では、投資的設備は控えるしかない」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「前年は消費税増税後の反動を引きずり、化粧品や宝飾・時計など高額品が売上が落としたが、本年は天候にも恵まれ、前半のGWは動員も好調。衣料品は紳士服が好調。宝飾・時計は高額品の動きも活発になってきた」(百貨店)、「便利だからといってネット通販が使われていると、柏の街から本屋が無くなってしまいます」(書籍・文房具小売業)、「景気回復のニュースが消費回復につながることを期待する」(その他の各種商品小売業)、「GW、母の日と好天に恵まれ、売上げは悪くなかった」(菓子・パン小売業)、「春先の干ばつから、その後、適度な降雨により入荷量が徐々に増加傾向にあります」(食料・飲料卸売業)、「昨年の増税後5月より売上は少し良かったが、平年からはやや落ちる。一部高額品を探す人が増えたが、全体的には消費を控える傾向にみえる」(時計・眼鏡・光学機械小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「個人需要では、相変わらず新幹線開業で北陸とアーリーパークインできる大阪のテーマパーク商品が人気。夏休みでは、人気アニメ連動商品の北海道、沖縄、グアムが人気。ヨーロッパ方面は情勢不安の影響で申込みは少ない。法人需要では、秋の職場旅行案件が活性化」(旅行業)、「設備投資には良い状態の経済情勢です。借入がし易い内に行動したいと思います」(不動産賃貸業)、「概ね弊社自社賃貸物件の稼働状況は居住用、商業用ともに良好。地震保険等の販売費や修繕費をどう抑制、若しくは売上転嫁していくかが課題だが、そこに至るまでの活況さはない」(不動産賃貸・管理業)、「年度はじめ、上期は低迷が恒例。自社商品のブランド化に重視している段階」(ソフトウェア業)、「景気そのものは横ばい状況で、お客様からの問合せは徐々に増えています。只、お客様からの値下げ要求は強く、仕入れ値、材料、建築費は上昇しています」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎原材料費高騰

「原材料の仕入価格等の上昇により、値上げを計画。その影響で業況も悪化の見込み」(酒類製造業)、「毎年4・5月は暇な時期だが、今年は今迄にない売上の落ち込みとなった。原材料や部材は上げどまりとなり、仕入単価は落ち着いてきたが、施工単価の値下げや値引きで受注単価が下落している。景気回復感より不況感の方が強く、業況好転の気配は感じられない。結局利益より売上確保の為、競争が激化している」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

#### ◎来客数減少

「GW以降、個人消費意欲が全く感じられない。特に来店客数が極端に少なくなった。客単価は変わらないが、客数の減少が痛い」(婦人・子供服小売業)、「5月GW明けから前年同月に比べ客数の減少がある」(酒場・ビアホール)などのコメントが寄せられた。

#### ◎先行き不透明

「今年度の先行きはいまだ不明です」(石工れんがタイルブロック工事業)、「1～2月は生産計画において、増産見込みであるが、中長期的な計画は不透明である」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲32.1	▲15.3	▲22.2	▲68.0	▲13.3
1月	▲24.3	▲20.0	±0.0	▲54.1	▲13.3
2月	▲18.5	▲28.5	▲5.2	▲32.0	±0.0
3月	▲12.0	▲9.0	△15.7	▲42.3	±0.0
4月	▲16.8	▲13.0	▲5.5	▲44.4	△13.3
5月	▲24.3	▲26.0	▲11.1	▲50.0	±0.0
見通し	▲12.1	▲13.0	±0.0	▲29.1	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年5月の業況についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲16.8)となり、マイナス幅が7.5ポイント拡大した。

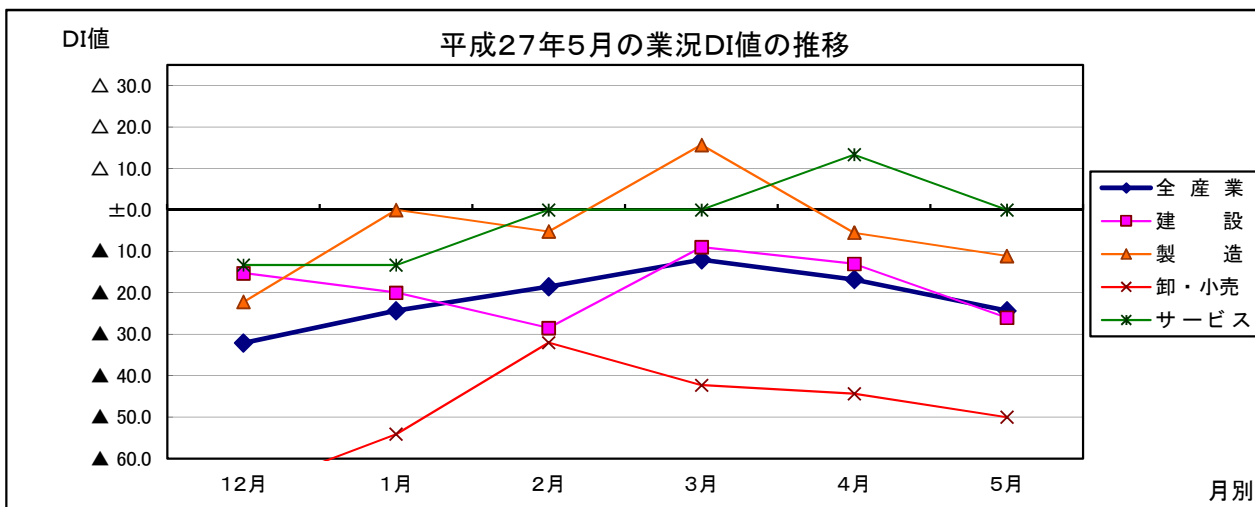
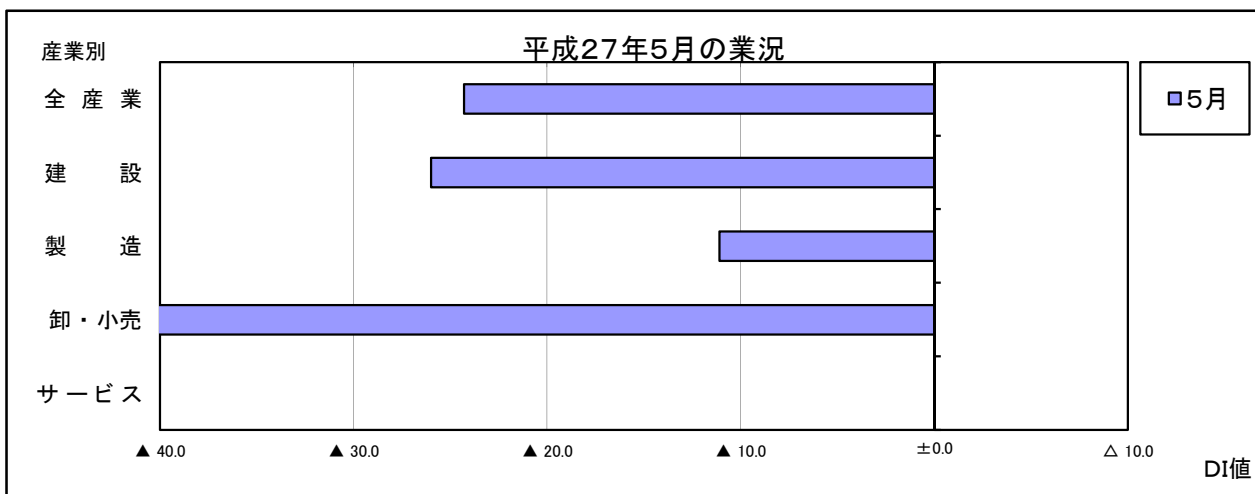
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.0(同▲13.0)、製造業▲11.1(同▲5.5)、卸小売業▲50.0(同▲44.4)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.1(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲11.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業である。変わらない見通しの業種は、建設業▲13.0(同▲13.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。

平成27年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲32.1	▲24.3	▲18.5	▲12.0	▲16.8	▲24.3	▲12.1(▲14.4)
建設	▲15.3	▲20.0	▲28.5	▲9.0	▲13.0	▲26.0	▲13.0(▲13.0)
製造	▲22.2	±0.0	▲5.2	△15.7	▲5.5	▲11.1	±0.0(▲11.1)
卸・小売	▲68.0	▲54.1	▲32.0	▲42.3	▲44.4	▲50.0	▲29.1(▲33.3)
サービス	▲13.3	▲13.3	±0.0	±0.0	△13.3	±0.0	±0.0(△13.3)



【平成27年5月の売上についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.0(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が2.6ポイント拡大した。

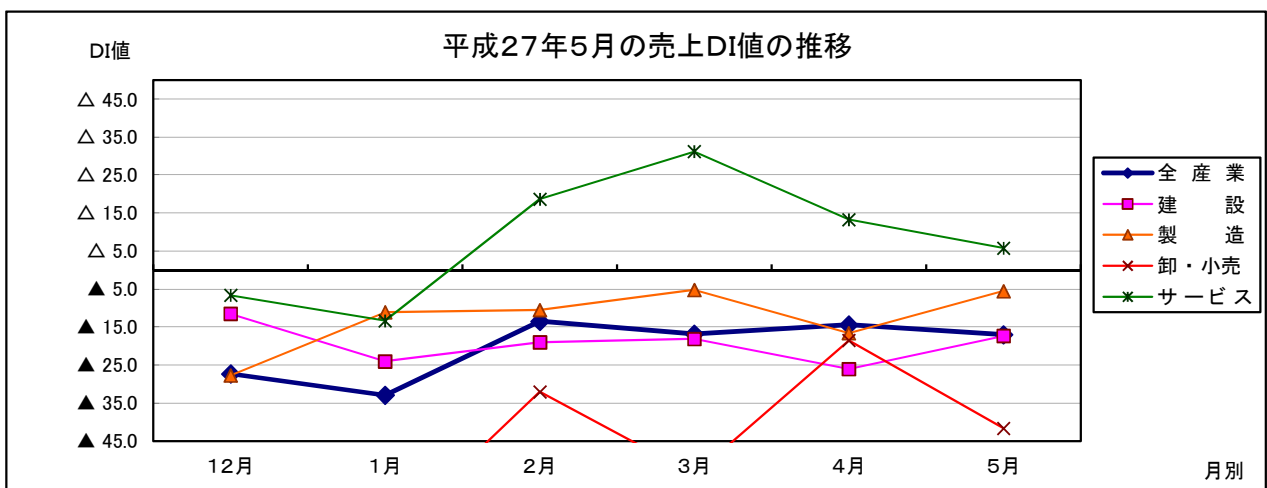
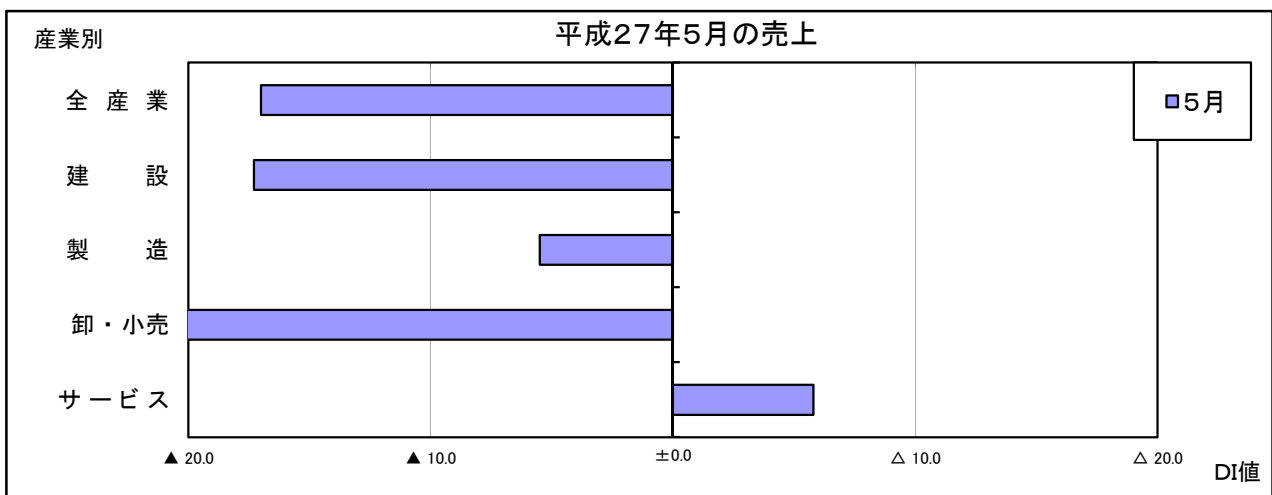
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.5(同▲16.6)、建設業▲17.3(同▲26.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△5.8(同△13.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲41.6(同▲18.5)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.5(前月水準▲3.6)となり、マイナス幅が4.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業±0.0(同▲8.6)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲11.1(同▲11.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△26.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲20.8(同▲11.1)である。

平成27年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲27.3	▲32.9	▲13.5	▲16.8	▲14.4	▲17.0	▲8.5(▲3.6)
建設	▲11.5	▲24.0	▲19.0	▲18.1	▲26.0	▲17.3	±0.0(▲8.6)
製造	▲27.7	▲11.1	▲10.5	▲5.2	▲16.6	▲5.5	▲11.1(▲11.1)
卸・小売	▲56.0	▲70.8	▲32.0	▲53.8	▲18.5	▲41.6	▲20.8(▲11.1)
サービス	▲6.6	▲13.3	△18.7	△31.2	△13.3	△5.8	±0.0(△26.6)



【平成27年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.2(前月水準▲31.3)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

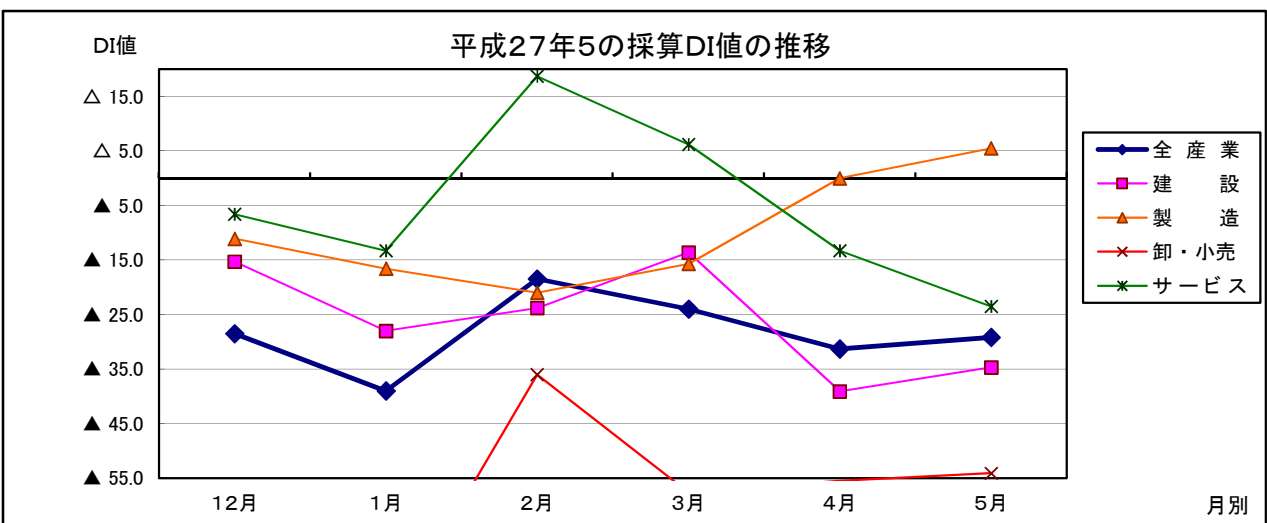
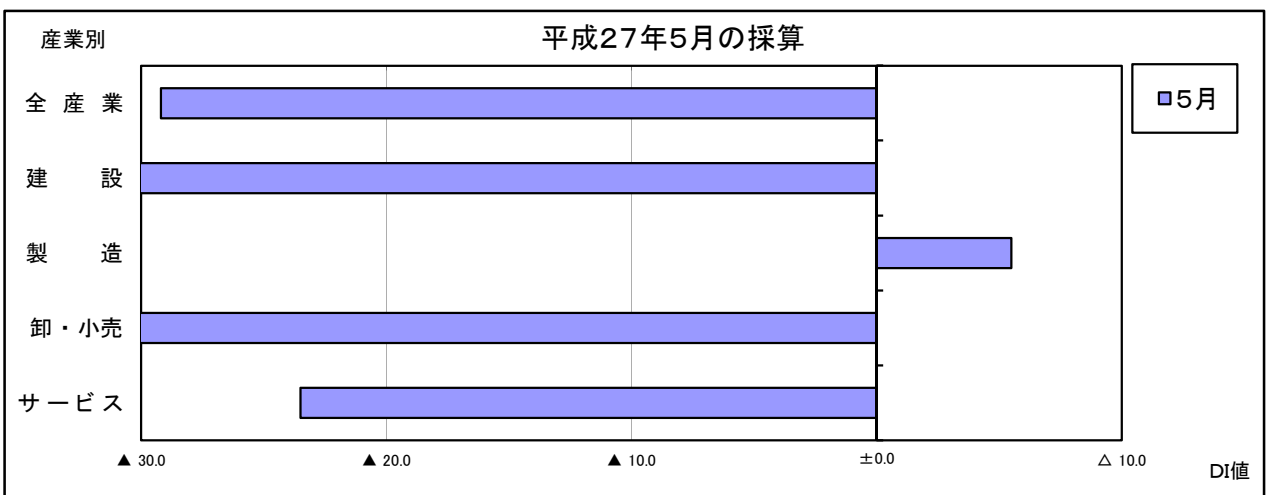
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△5.5(±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲34.7(同▲39.1)、卸小売業▲54.1(同▲55.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲23.5(同▲13.3)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.8(同▲19.2)となり、マイナス幅が7.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲11.7(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲22.2)、建設業▲21.7(同▲17.3)、卸小売業▲37.5(同▲37.0)である。

平成27年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲28.5	▲39.0	▲18.5	▲24.0	▲31.3	▲29.2	▲26.8(▲19.2)
建設	▲15.3	▲28.0	▲23.8	▲13.6	▲39.1	▲34.7	▲21.7(▲17.3)
製造	▲11.1	▲16.6	▲21.0	▲15.7	±0.0	△5.5	▲33.3(▲22.2)
卸・小売	▲68.0	▲83.3	▲36.0	▲57.6	▲55.5	▲54.1	▲37.5(▲37.0)
サービス	▲6.6	▲13.3	△18.7	△6.2	▲13.3	▲23.5	▲11.7(△13.3)



【平成27年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲36.5(前月水準▲43.3)となり、マイナス幅が6.8ポイント拡大した。

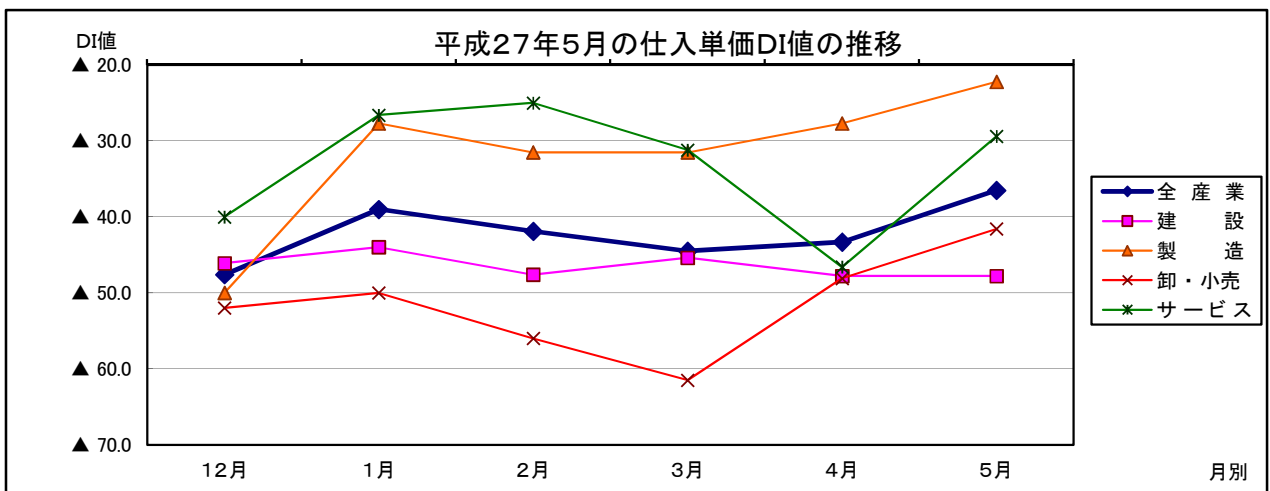
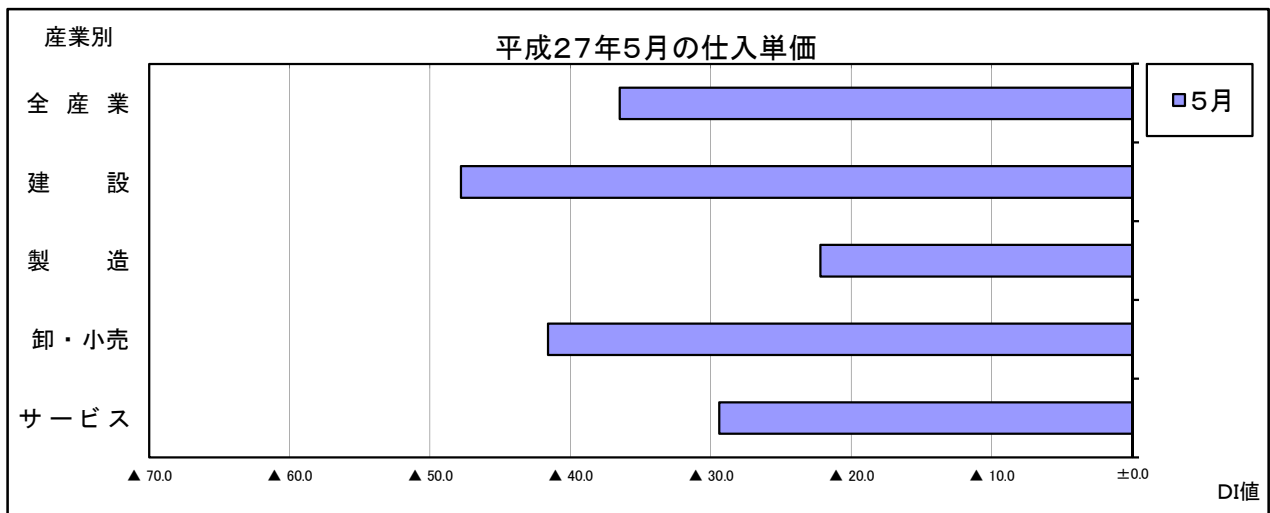
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲29.4(同▲46.6)、卸小売業▲41.6(同▲48.1)、製造業▲22.2(同▲27.7)である。変わらない業種は、建設業▲47.8(同▲47.8)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.3(同▲31.3)となり、マイナス幅が7.0ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、建設業▲17.3(同▲26.0)、卸小売業▲29.1(同▲37.0)、製造業▲16.6(同▲22.2)、サービス業▲35.2(同▲40.0)である。

平成27年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲47.6	▲39.0	▲41.9	▲44.5	▲43.3	▲36.5	▲24.3(▲31.3)
建設	▲46.1	▲44.0	▲47.6	▲45.4	▲47.8	▲47.8	▲17.3(▲26.0)
製造	▲50.0	▲27.7	▲31.5	▲31.5	▲27.7	▲22.2	▲16.6(▲22.2)
卸・小売	▲52.0	▲50.0	▲56.0	▲61.5	▲48.1	▲41.6	▲29.1(▲37.0)
サービス	▲40.0	▲26.6	▲25.0	▲31.2	▲46.6	▲29.4	▲35.2(▲40.0)



【平成27年5月の従業員についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△8.5(前月水準△8.4)となり、プラス幅が0.1ポイント拡大した。

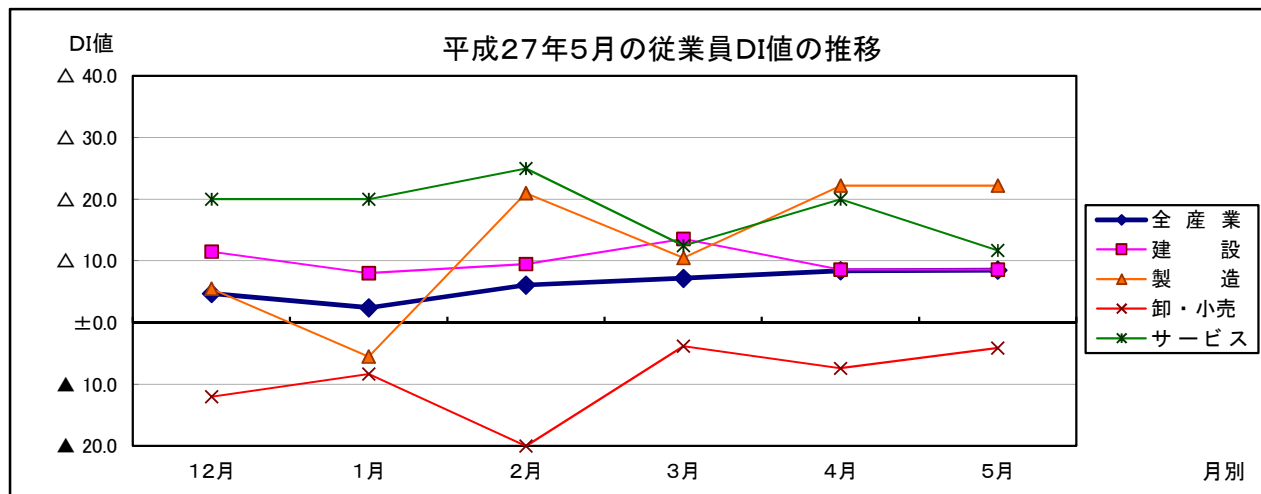
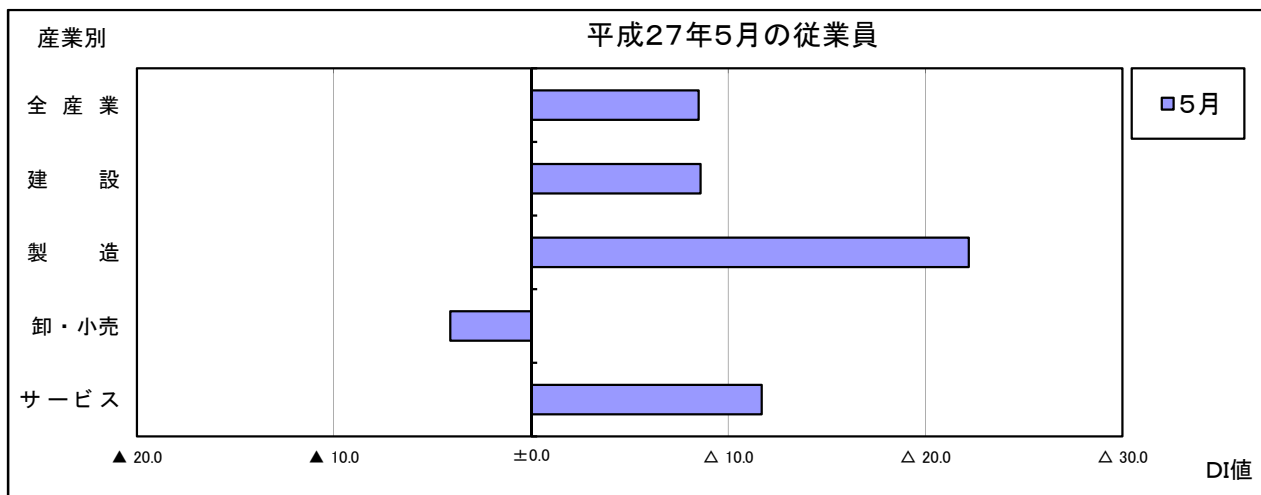
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲4.1(同▲7.4)である。変わらない業種は、建設業△8.6(同△8.6)、製造業△22.2(同△22.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△11.7(同△20.0)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△15.8(同△8.4)であり、プラス幅が7.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△23.5(同△13.3)、建設業△21.7(同△13.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業△4.1(同▲3.7)である。変わらない業種は、製造業△16.6(同△16.6)である。

平成27年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△4.7	△2.4	△6.1	△7.2	△8.4	△8.5	△15.8(△8.4)
建設	△11.5	△8.0	△9.5	△13.6	△8.6	△8.6	△21.7(△13.0)
製造	△5.5	▲5.5	△21.0	△10.5	△22.2	△22.2	△16.6(△16.6)
卸・小売	▲12.0	▲8.3	▲20.0	▲3.8	▲7.4	▲4.1	△4.1(▲3.7)
サービス	△20.0	△20.0	△25.0	△12.5	△20.0	△11.7	△23.5(△13.3)





【平成27年5月の資金繰りについての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.5(前月水準▲12.0となり、マイナス幅が3.5ポイント縮小した。

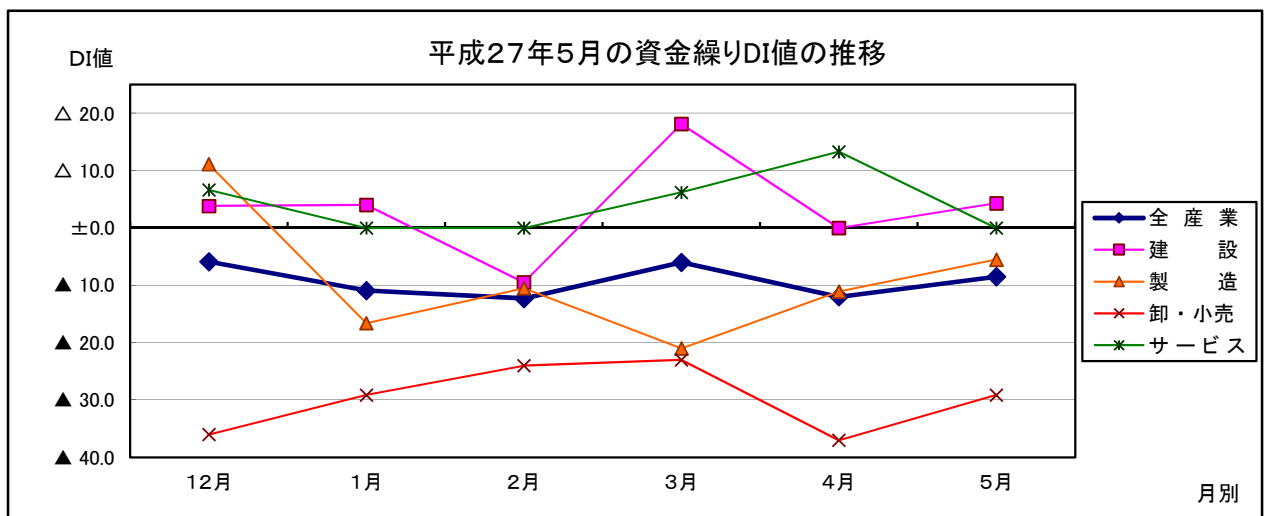
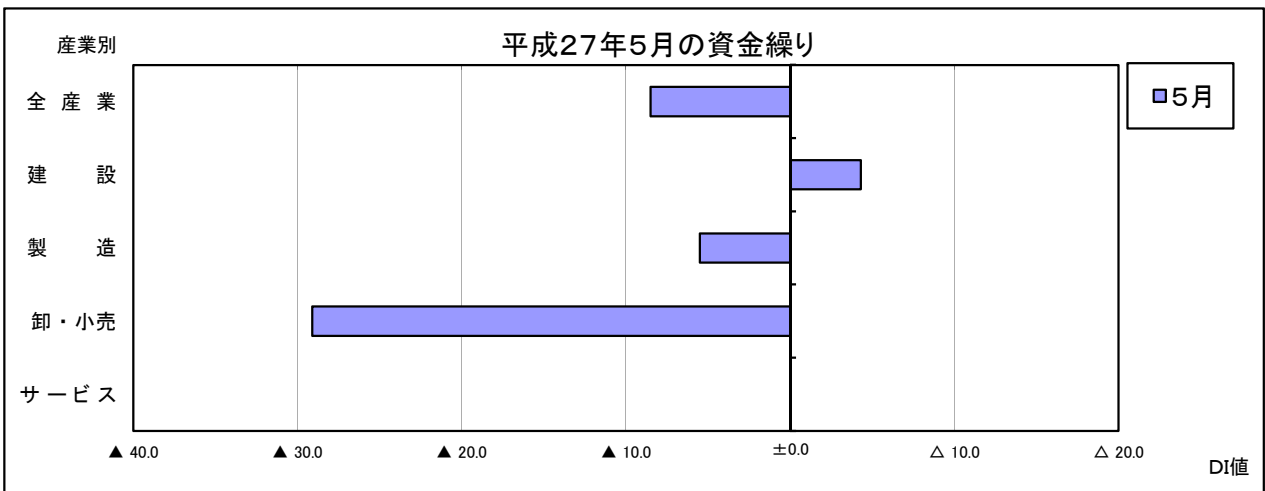
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△4.3(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.1(同▲37.0)、製造業▲5.5(同▲11.1)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△13.3)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.8(前月水準▲4.8)となり、変わらない見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲20.8(同▲22.2)である。変わらない見通しの業種は、建設業△8.6(同△8.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△11.7(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲16.6(同▲11.1)である。

平成27年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 12月	平成27年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲5.9	▲10.9	▲12.3	▲6.0	▲12.0	▲8.5	▲4.8(▲4.8)
建設	△3.8	△4.0	▲9.5	△18.1	±0.0	△4.3	△8.6(△8.6)
製造	△11.1	▲16.6	▲10.5	▲21.0	▲11.1	▲5.5	▲16.6(▲11.1)
卸・小売	▲36.0	▲29.1	▲24.0	▲23.0	▲37.0	▲29.1	▲20.8(▲22.2)
サービス	△6.6	±0.0	±0.0	△6.2	△13.3	±0.0	△11.7(△13.3)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 17.0	▲ 8.5	▲ 29.2	▲ 26.8	▲ 36.5	▲ 24.3	△ 8.5	△ 15.8
建設	▲ 17.3	±0.0	▲ 34.7	▲ 21.7	▲ 47.8	▲ 17.3	△ 8.6	△ 21.7
製造	▲ 5.5	▲ 11.1	△ 5.5	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 16.6	△ 22.2	△ 16.6
卸・小売	▲ 41.6	▲ 20.8	▲ 54.1	▲ 37.5	▲ 41.6	▲ 29.1	▲ 4.1	△ 4.1
サービス	△ 5.8	±0.0	▲ 23.5	▲ 11.7	▲ 29.4	▲ 35.2	△ 11.7	△ 23.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.3	▲ 12.1	▲ 8.5	▲ 4.8
建設	▲ 26.0	▲ 13.0	△ 4.3	△ 8.6
製造	▲ 11.1	±0.0	▲ 5.5	▲ 16.6
卸・小売	▲ 50.0	▲ 29.1	▲ 29.1	▲ 20.8
サービス	±0.0	±0.0	±0.0	△ 11.7

【平成27年5月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	子供が実家に戻り、同居するにあたってのリフォームの問合せが増えてきた。年金暮らしでは、所得税減税などのメリットが受けられないが、子供が融資を受けて、一定の要件を満たせば適用対象になるなど。	リフォーム相談件数増加	一般土木建築工事業
	新規の工事より改修工事が多く、材料の価格は落ち着いたが、見積り積算価格は低い。	改修(リフォーム)工事増加 見積り積算価格下落	電気工事業
	畳縁(ヘリ)バックの売れ行きが好調なのはとても嬉しいですが、畳縁だけでなく、持ち手や裏地の仕入価格が上昇していて本当に困る。	畳縁バック売れ行き好調 原材料費高騰	内装工事業
	今年度の先行きははまだ不明です。	先行き不透明	石工れんがタイルブロック工事業
	毎年4・5月は暇な時期だが、今年は今迄にない売上の落ち込みとなった。原材料や部材や上げどまりとなり、仕入単価は落ち着いてきたが、施工単価の値下げや値引きで受注単価が下落している。景気回復感より不況感の方が強く、業況好転の気配は感じられない。結局利益より売上確保の為、競争が激化している。	例年にない売上減少 原材料費高騰(上げどまり) 受注単価下落(値下げ・値引き) 実感なき景気回復 競争激化	その他の職別工事業
製造業	為替の影響で海外品の仕入単価が上昇傾向。運転手不足による運賃価格改定の依頼あり。	仕入単価上昇(為替の影響) 運賃価格改定の依頼	その他の機械・同部品製造業
	建設機材の輸出減少で売上が減少。給与平均10,000円アップ。不採算企業と交渉(価格アップ)が実現。	売上減少(輸出減少) 給与アップ 価格交渉実現(不採算企業との)	その他の金属製品製造業
	絶対的に仕事量が薄くなっている。現況では、投資的設備は控えるしかない。	仕事量減少	印刷業
	1~2月は生産計画において、増産見込みであるが、中長期的な計画は不透明である。	先行き不透明	一般産業用機械・装置製造業
	原材料の仕入価格等の上昇により、値上げを計画。その影響で業況も悪化の見込み。	原材料費高騰 商品値上げ計画 業況悪化の見込み	酒類製造業
卸小売	前年は消費税増税後の反動を引きずり、化粧品や宝飾・時計など高額品が売上を落としたが、本年は天候にも恵まれ、前半のGWは動員も好調。衣料品は紳士服が好調。宝飾・時計は高額品の動きも活発になってきた。中元は前年よりも1週間早めて展開し、顧客の利便性を図った。	GWの動員好調 衣料品(紳士服)好調 高額品好調(時計・宝飾品)	百貨店
	ゴールデンウィーク以降、個人消費意欲を全く感じられない。特に来店客数が極端に少なくなった。客単価は変わらないが、客数の減少が痛い。また、早く暑くなり過ぎて、端境商品を多く残しそうな雰囲気である。	個人消費意欲の低下 来店客数減少	婦人・子供服小売業
	便利だからといってネット通販が使われていると柏の街から本屋が無くなってしまいます。無くなってから不便だと思われても後の祭りです。	ネット通販 先行き不安	書籍・文房具小売業
	景気回復のニュースが消費回復につながることを期待する。	消費回復への期待	その他の各種商品小売業

【平成27年5月の業種別業界内トピックス】

	GW/母の日と好天に恵まれ、まあまあ良かったです。	好天による売上好調	菓子・パン小売業
	春先の干ばつから、その後、適度な降雨により入荷量が徐々に増加傾向にあります。しかし、重量野菜全てが入荷量が増えたわけではありません。まだ一部品目では、品薄から高値傾向もあります。総じて雨不足に地域では高値取引もあります。景気動向では、一部上向いているところから、季節感の枝豆、梅など消費購買を期待するところもあります。国では、食品表示法(機能性表示)や地理的表示保護制度の運用について、生産者が前向きにものづくりに取り組める法律となっているようです。今後、生産物が消費拡大につながることを期待します。	入荷量微増(青果) 一部商品高値傾向 食品表示法 地理的表示保護制度	食料・飲料卸売業
	昨年の増税後5月より売上は少し良かったが、平年からはやや落ちる。一部高額品を探す人が増えたが、全体的には消費を控える傾向にみえる。	買い控え傾向	時計・眼鏡・光学機械小売業
サービス	5月ゴールデンウィーク明けから前年同月に比べ客数の減少がある。プレミアム商品券は広く市民に知られていないようである。	来客数減少 プレミアム商品券	酒場・ビヤホール
	個人需要では、相変わらず新幹線開業で北陸とアーリーパークインできる大阪のテーマパーク商品が人気。夏休みでは、人気アニメ連動商品の北海道、沖縄、グアムが人気。ヨーロッパ方面は情勢不安の影響で申込みは少ない。法人需要では、秋の職場旅行案件が活性化。	北陸地域商品 大阪テーマパーク商品 人気アニメ連動商品 ヨーロッパの情勢不安の影響 秋の職場旅行	旅行業
	設備投資には良い状態の経済情勢です。借入がし易い内に行動したいと思えます。	設備投資	不動産賃貸業
	概ね弊社自社賃貸物件の稼働状況は居住用、商業用ともに良好。地震保険等の販売費や修繕費をどう抑制、若しくは売上転嫁していくかが課題だが、そこに至るまでの活況さはない。	物件稼働率好調	不動産賃貸・管理業
	年度はじめ、上期は低迷が恒例。自社商品のブランド化に重視している段階。	売上低迷(上期) 自社商品のブランド化	ソフトウェア業
	景気そのものは横ばい状況で、お客様からの問合せは徐々に増えています。只、お客様からの値下げ要求は強く、仕入れ値、材料、建築費は上昇しています。	景気横ばい 問合せ件数微増 値下げ要求(お客様より) 原材料費高騰	不動産管理業

## ◎原材料費高騰

原材料の仕入価格等の上昇により、値上げを計画。その影響で業況も悪化の見込み。

酒類製造業

毎年4・5月は暇な時期だが、今年は今迄にない売上の落ち込みとなった。原材料や部材は上げどまりとなり、仕入単価は落ち着いてきたが、施工単価の値下げや値引きで受注単価が下落している。景気回復感より不況感の方が強く、業況好転の気配は感じられない。結局利益より売上確保の為、競争が激化している。

その他の職別工事業

## ◎来客数減少

GW以降、個人消費意欲が全く感じられない。特に来店客数が極端に少なくなった。客単価は変わらないが、客数の減少が痛い。

婦人・子供服小売業

5月GW明けから前年同月に比べ客数の減少がある。

酒場・ビアホール

## ◎先行き不透明

今年度の先行きはいまだ不明です。

石工れんがタイルブロック工事業

1～2月は生産計画において、増産見込みであるが、中長期的な計画は不透明である。

一般産業用機械・装置製造業











## 平成27年5月CCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CCI-LOBO」が▲13.5で柏の方がマイナス幅が10.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.0に対し、「CCI-LOBO」が▲4.5で柏の方がマイナス幅が12.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.2に対し、「CCI-LOBO」が▲12.8で柏の方がマイナス幅が16.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲36.5に対し、「CCI-LOBO」が▲43.7で柏の方がマイナス幅が7.2ポイント小さい。「柏の景気」が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△8.5に対し、「CCI-LOBO」が△12.1で柏の方がプラス幅が3.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業では、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.5に対し、「CCI-LOBO」が▲10.4で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業では、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。











# 平成27年5月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 24.3	 ▲ 26.0	 ▲ 11.1	 ▲ 50.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 13.5	 ▲ 13.4	 ▲ 15.1	 ▲ 13.6	 ▲ 10.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 17.0	 ▲ 17.3	 ▲ 5.5	 ▲ 41.6	 △ 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 4.5	 ▲ 12.9	 ▲ 4.4	 △ 2.7	 ▲ 5.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 29.2	 ▲ 34.7	 △ 5.5	 ▲ 54.1	 ▲ 23.5
CCI-LOBO	 ▲ 12.8	 ▲ 12.7	 ▲ 13.1	 ▲ 10.6	 ▲ 13.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 36.5	 ▲ 47.8	 ▲ 22.2	 ▲ 41.6	 ▲ 29.4
CCI-LOBO	 ▲ 43.7	 ▲ 43.9	 ▲ 37.8	 ▲ 44.3	 ▲ 42.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 8.5	 △ 8.6	 △ 22.2	 ▲ 4.1	 △ 11.7
CCI-LOBO	 △ 12.1	 △ 14.2	 △ 2.3	 △ 16.9	 △ 20.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 8.5	 △ 4.3	 ▲ 5.5	 ▲ 29.1	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.4	 ▲ 4.6	 ▲ 10.6	 ▲ 16.2	 ▲ 10.4

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

  は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：平成27年5月15日～21日

調査対象：全国の422商工会議所が2984企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、改善続く。  
先行きは横ばい圏内で推移も、持ち直しに期待感

5月の全産業合計の業況DIは、▲13.5と、前月から+1.8ポイントの改善。輸出増に伴う生産の伸びや好調なインバウンドによる下支え、株高・賃上げに伴う消費者のマインド好転に加え、一部で設備投資の動きが出始めるなど、中小企業の景況感は、受注・売上の回復を背景に持ち直しに向けた動きが進む。ただし、比較対象の前年同月は駆け込み需要の反動の影響から業況が一段と悪化した時期であることに留意が必要。また、業況DIの好転は、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、依然としてコスト増や取引価格への転嫁遅れ、人手不足などが足かせとなる状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲14.3（今月比▲0.8ポイント）とほぼ横ばいを見込む。コスト増加分の価格転嫁遅れや人手不足、人件費の上昇などが、引き続き経営の足かせになるとの見方から、一部にもたつきが残る。他方で、大手企

業の業績改善が進む中、受注増や設備投資の持ち直しへの期待感が伺えるほか、夏の賞与増を含む所得環境の好転から、個人消費の伸びを見込む声も聞かれている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「資材価格の値上げが見込まれるが、依然としてコスト増加分の転嫁が十分にできておらず、さらなる収益圧迫を懸念」（一般工事業）、「労務単価の見直しなどにより公共工事の採算は好転しているが、発注量が少ないため、期待したほどの利益を得られていない」（一般工事業）、「住宅をはじめ民間工事の引き合いが徐々に増えてきており、今後の受注見通しにも明るさを感じられる」（建築工事業）

【製造業】「円安定着により、海外産の冷凍すり身などの仕入価格が高止まりしているが、転嫁が進まず、採算は厳しい」（水産食料品製造業）、「取引先の鉄鋼メーカーが今年度の設備投資計画を大幅に上積みしたため、受注が伸びている」（産業用機械部品製造業）、「国内向け

は依然として鈍いものの、北米を中心に輸出向けが好調。生産性を高めるため、省力化投資を行う予定」（自動車部品製造業）

【卸売業】「人材確保が困難なため、初任給の引き上げやベースアップを検討中。他方で、人件費の増大による経営への影響が心配」（農産物卸売業）、「原材料高により仕入コストの増大が続いていたが、取引先との交渉に注力した結果、販売価格への転嫁が徐々に進んできている」（食料品卸売業）、「業績が堅調に推移しており、物流拠点の集約や能力増強などの設備投資を検討している」（塗料・照明器具等卸売業）

【小売業】「ゴールデンウィーク後半に天気が崩れたほか、台風もあつて多少なり客足に影響がみられたが、子供服や雑貨などを中心に売上は好調」（百貨店）、「6月にプレミアム付き商品券が発行されるため、売上増を期待。ただし、商品によって品薄になる恐れもあり、在庫管理が難しい」（総合スーパー）、「外国人観光客の来店が増えているため、中国語を話せるスタッフを雇いたいのが、希望する人材が少なく、採用は難しい」

（衣料品・服飾雑貨販売店）

【サービス業】「気温の上昇とともに飲料などの引き合いが増えることが見込まれるが、ドライバー不足が深刻であり、対応に苦慮している」（運送業）、「野菜が高値となっているほか、食料品の値上げもあつて、採算が悪化」（飲食店）、「北陸新幹線を利用して来県する観光客が多く、特に休日は満室の状況が続いている」（旅館業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲29.7	▲9.4	▲23.6	▲40.5	▲48.7	▲26.0
1月	▲25.9	▲14.4	▲17.5	▲30.5	▲48.2	▲19.2
2月	▲21.7	▲9.4	▲14.9	▲29.8	▲43.5	▲12.9
3月	▲24.7	▲6.8	▲15.6	▲34.2	▲49.7	▲17.7
4月	▲15.3	▲10.1	▲15.6	▲20.5	▲18.1	▲13.2
5月	▲13.5	▲13.4	▲15.1	▲17.3	▲13.6	▲10.0
見通し	▲14.3	▲16.5	▲11.7	▲19.5	▲16.1	▲11.5